

菊本副院長の漢方問答 その63



問 「生活習慣病の漢方治療とはどのようなものですか？」①

答 肥満と関係が深い「糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」などの生活習慣病に関する漢方治療について、日本東洋医学会が出版している「漢方医学テキスト」に記載されている処方を中心にお話してまいりました。今回は、「漢方医学テキスト」に記載されてはいませんが、当院でよく処方されるお薬に関して、お話しします。

今回は、「龍胆瀉肝湯」です。龍胆瀉肝湯は「薛氏十六種」という書物で紹介されています。構成生薬は、龍胆、当帰、地黄、山梔子、黄芩、甘草、車前子、沢瀉、木通です。

書物の条文は難解ですので割愛させていただきますが、意識しますと、主に下腹の水の流れが悪くなり、その水の流れが悪くなっているところが熱をもつ(湿熱といえます)ことがあります。この湿熱のために、お

腹が痛くなったり、できものができたり、便秘したり、皮膚がただれたり、尿が出にくくなったり、化膿したり、卵巣や子宮が腫れたり、性器の調子がわるくなったりすることがあります。これらの症状・所見に、龍胆瀉肝湯が有効と書かれています。

図1は、私の漢方の師匠が描かれた龍胆瀉肝湯の腹証図です。①は血の流れが悪いこと(瘀血といえます)を表わしています。当帰が有効です。②が湿熱を表わしています。地黄と

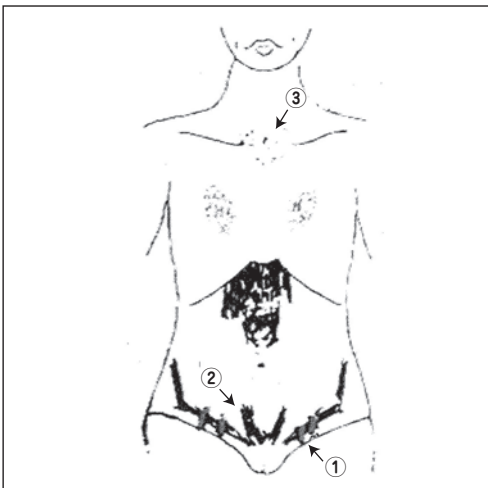


図1

龍胆が有効です。③が胸部にたまった熱を表わしています。山梔子が有効です。これらの生薬が、龍胆瀉肝湯の主体となります。

図2は、私の漢方の師匠が、毛筆で描かれた龍胆瀉肝湯の腹証図です。④が湿熱を表わしています。「これを見逃してはいかん！」と、迫力のある筆致です。

龍胆瀉肝湯の証の方は、生活習慣病だけでなく、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患の方にも多いようです。

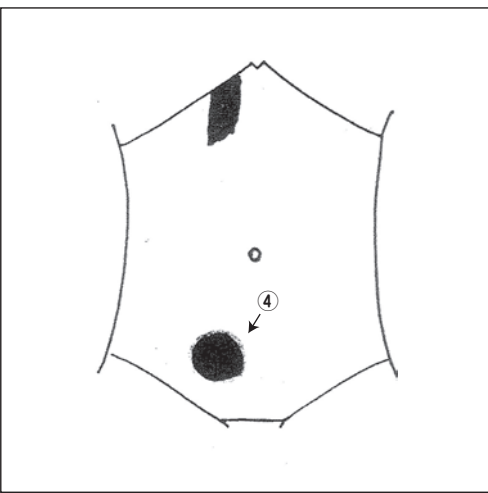


図2